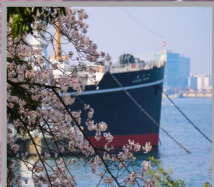


# 医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院  
(第45号)

発行：令和3年4月1日(木)



## 病院長として考える医療安全

日本医科大学千葉北総病院 病院長 別所竜蔵

2020年4月より、当院病院長を拝命いたしました別所竜蔵です。よろしくお願いいたします。

私は心臓血管外科医であり「外科医は結果である」を胸に刻みながら、1988年よりその道を究めるため日々邁進しておりました。2007年4月に日本医科大学付属病院より当院に異動し、心臓血管外科部長として患者さんの安全を第一に手術成績の向上に取り組んでまいりました。2013年には当院医療安全管理委員会委員長に、また2017年には副院長として医療安全管理部部長を兼任させていただきました。このように、病院長になる以前から当院の医療安全の向上に関する業務に長く従事させていただいており、病院あげての医療安全に関する取り組みについては病院長に就任したからと言って大きく変わることはなく、病院運営の一丁目一番地であることに変わりはありません。

医療安全管理部部長時代から、医療安全に関する新たな知見や取り組みなど安全向上に資すると考えたものは、当院の医療安全マニュアルや管理指針に率先して取り入れてまいりました。しかしながら、医療安全の向上にはマニュアル作りや指針の改定のみでは、実際の安全が担保されるわけではありません。この1年、世界で蔓延する新型コロナ感染の厄災を見ても、緊急事態宣言を発出したからといって、感染が制御されるわけでは決してありません。一人一人の真摯な取り組みや対策こそが肝要なのです。



ここでは紙面の関係から詳細な取り組みについては省略せざるを得ませんが、今一度医療の原点に立ち返り、それぞれの医療者の心構えについて自身で自問自答をしていただきたいと思います。例えば、『病気で苦しんでいる人を何とかしたい』、『元気になっていただきたい』、『生活の質を維持・向上していただきたい』ということなどです。「人」嫌いなものが臨床に携わる医療者を職業として選択することはあり得ないことだと思います。「人」が好きだからこそ、『病魔で苦しんでいる人を何とかしたい』という原点が皆にあると信じています。当たり前のことですが、私たちも患者さんも一人一人、同じ人間であり（私たちも当然患者になりうる）、この先生は（または看護師さんは）、私のことを本当に考えてくれているのかどうかは、実は分かっています（専門家に対する一定の敬意もあるでしょうが、お互いの人間関係において本当の信頼はそこではありません）。そういう患者さん側の視点から自身の診療について日々自問自答する必要があります。患者さん自身も自分の病魔に関して積極的に理解し対峙していただく必要もあります。それこそ他人ごとではないのですから。なぜなら医療者、患者さんがともに病気に関する理解や診療方針、治療に関するリスクなどについて共有し、共に手を携えて病魔と対峙していくことこそが、医療安全につながる第一歩であると考えます。

私は、病院長就任の際に、そのモットーとして“ALL for One”を掲げさせていただきました。一人一人の患者さんに対して、病院職員が一丸となって対応していく、一つ一つの問題点に全病院を挙げて取り組んでいくことです。もちろん病気に関しては“ALL for One”の“ALL”には患者さん自身も含まれることは医療安全の観点からもとても大切なことです。

病院長として、これからも当院での医療が安全に行われることを第一に取り組みを続けてまいります。

# 食物アレルギーの基礎知識



栄養科 科長 石井弘幸



私たちが日ごろ耳にする「食物アレルギー」の様々な疑問に、お答えいたします！

## Q1：食物アレルギーって何？

**A：**特定の食べ物を摂った後に、本来なら体を守るはずの免疫システムが過剰に反応して、有害な症状を引き起こす現象を言います。

※ 乳糖不耐症やヒスタミン中毒などは免疫学的機序を介さないため、食物アレルギーとは異なります。

## Q2：食物アレルギーの原因は？

**A：**アレルギーの原因食物は年齢により若干異なり、小児は卵・魚卵（イクラ）・牛乳・ナッツ類などが多く、成人では小麦・魚類・甲殻類・フルーツ・そばなどが多くとされています。また、小児は自然に症状が治まってく自然寛解が多く、成人は治りにくい傾向があります。

## Q3：食物アレルギーの表示って？

**A：**発症件数が多いものや、発症した際の症状が重いものについては「特定原材料」が定められています。表示は省令で義務付けられており、食物アレルギーを持つ方々に注意喚起を促します。

下図参照！



## Q4：アナフィラキシーって何？

**A：**多臓器に重篤な症状が現れる場合を「アナフィラキシー」と呼び、すぐに適切な対応をしないと生命に係る状態を言います。ショック症状を伴う場合は「アナフィラキシーショック」と呼び、迅速かつ適切な対応をしないと生命を脅かす可能性のある、最も危険な状態です。



規定	特定原材料等の名称	表示
府令 (7品目)	卵、乳、小麦、落花生、そば、エビ、カニ	表示義務
通知 (21品目)	バナナ、キウイフルーツ、りんご、オレンジ もも、大豆、やまいも、まつたけ、カシューナッツ アーモンド、クルミ、ごま、さば、さけ、いか あわび、イクラ、牛肉、豚肉、鶏肉、ゼラチン	表示を奨励 (任意表示)



食品表示基準Q&A 平成27年3月30日 消食表第140号 / 消費者庁 をもとに作成



## 当院の食物アレルギーへの対応について

当院では、食物アレルギーの聞き取りを、問診票などを利用しながら各部署協同で行っております。アレルギー情報を把握し、その情報は電子カルテに記録されます。食事提供時には、電子カルテのアレルギー情報（プロファイル）を基に栄養科部門システムに伝達、反映された食事が提供される仕組みになっております。これからも安全で安心出来る食事提供を心がけていきます。





# 医療放射線と安全管理



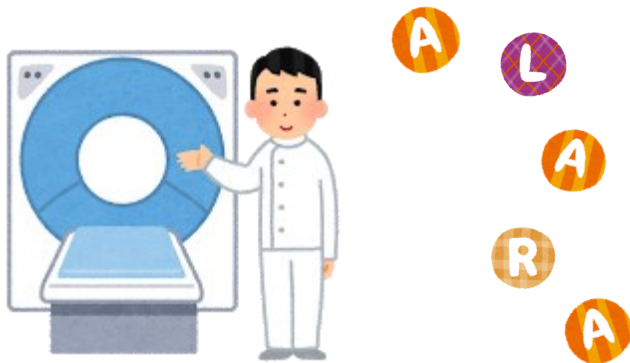
放射線センター 技師長 診療放射線技師 小林宏之

2019年4月より千葉北総病院へ配属になりました。今後とも宜しくお願い致します。このコロナ禍でジム通いができない分、駅一病院を徒歩通勤していますが、澄み渡る広大で高い空を目にするたび、智恵子抄でいうところの「ほんとの空」がココにはあると確信しています。

放射線センターは、診療・教育・研究を柱として放射線科部長を中心に医師・診療放射線技師・看護師・看護助手が一丸となり、医療の質と医療安全管理体制の向上に取り組んでいます。具体的には、診療・治療面で最大限メリットの多い最適な放射線画像を最小限の医療被ばくで安定して提供することを責務としています。

この考え方の礎はALARA (As Low As Reasonably Achievable) の原則です。これは、放射線の安全利用において「合理的に達成可能な限り低く」するべきであるという国際的な原則です。これを念頭に被ばく線量のコントロールを行うわけですが、一筋縄ではいきません。従来、放射線画質vs放射線量には一定の関係性がありましたが、昨今の放射線機器の技術革新(半導体性能や画像処理等)によりその関係性が成立しなくなっています。例えば老朽化した機器ほど被ばく量が多くなる事実や過度の画像処理による功罪など種々の問題が存在します。これを踏まえつつ、本来の病態を反映した検査画像の作成、そして高精度にコリメーション(放射線障害を最小限に、かつ目的腫瘍範囲にピンポイントに照射するため、照射範囲の形状や大きさ等を緻密に計算しコントロールすること)された放射線治療を行い、その放射線量の記録管理・検証を行っています。

放射線センターは、社会的・経済的要因を考慮しながらもALARAの原則に基づき日々の診療に取り組んでいます。また東日本大震災に伴う原発災害による放射線への風評や誤解、さらに突出した日本の医療被ばくの現実も考慮し、患者さんが有益で安全な放射線診療を安心して受診できる様、検査被ばくについての説明も丁寧に行うことを心掛けています。



## 編集後記

ニュースレター第45号の発行に当たり、ご執筆いただいた院長先生はじめ諸先生方、ありがとうございました。今回院長の立場から医療安全についてご寄稿いただきました。別所院長には、医療安全管理部部長時代からたくさんのご指導をいただけてまいりました。今後も院長とともに医療安全に取り組んでいきたいと改めて思いました。

さて、2020年度は、すべての人々がコロナ禍の落ち着いた1年を過ごしたと思います。10名以上の会議や集合研修の禁止、休憩時の黙食など、院内でも様々な感染対策を行ってきました。この4月1日号が発行される頃には、医療機関でのワクチン接種が進み、落ち着きを取り戻しているでしょうか。この状況にあっても「病院機能を維持する」ということは、感染対策を行っていることを前提として、臨床のすべてにおいて安全への取り組みを維持していくことだと思います。多職種で取り組む医療安全の活動を多くの方に知っていただけるように、今年度も様々な内容のニュースレターを発刊していきたいと思っております。「こんなことが知りたい」「安全対策で行っている活動を紹介したい」というご意見を、ぜひお寄せください。次号も楽しみにお待ちしております。

岩井 智美 記

### 【ご意見募集】

皆さまのご意見をお待ちしております。  
電子メールアドレス

[h-newsletter@nms.ac.jp](mailto:h-newsletter@nms.ac.jp)

### 【お知らせ】

当院のホームページから閲覧できます。  
ホームページアドレス

<https://www.nms.ac.jp/hokuso-h/>

### 【編集担当】

医療安全管理ニュースレター編集委員会

片山靖史(委員長)

金 徹	矢野 綾子	岩井 智美
花澤みどり	岡本 直人	宗村麻紀子
石井 聡	岸 大輔	岩田 尚悟